

第111話 郷土の医師たち

中山町 歴史散策

江戸時代、中山町にどれほどの医師がいたかは「村明細帳」や「人別宗旨改帳」で確認することができます。医療には多額の費用を要するため、困窮した名子や水呑みの階級では容易に医療を受けることができませんでした。しかしながら、病人の少ないところでは医業が成り立ちませんので、農山村部では、医師が農業や村役人、寺子屋の師匠などを兼ねることも少なくなかったようです。

「長崎村明細帳」の記録では、長崎村の医師は4人から変動がありました。一方、宝暦5(1755)年の「達磨寺村明細帳」によると、職人の分類では、「医師二人、大工一人、屋根ふき四人、道心四人、出家五人、尼五人(後略)」とあり、達磨寺村の人口529人に対し医師は2名でしたが、寛政12(1800)年の村明細帳では、医師3人と記述があることから、達磨寺村では宝暦5年から医師が1名増えていることとなります。

※参考 中山町史 中巻 第9章第4節 疫病の流行

ゴルゴ松本さん 中山中で「命の授業」

5月20日、中山中学校の創立50周年を記念して、お笑い芸人のゴルゴ松本さんを講師に迎え「ゴルゴ塾!命の授業」が行われました。会場の新校舎体育館には、全校生徒のほか約350人の観客が集まりました。

講演では、「日本語や漢字は奥が深い。50音では母音といわれる『あいうえお』が基本にあり、その始まりに『あい(愛)』がある。これは人の一生と同じで、母の愛から生まれて人生が始まり、様々な人に出会って多くの経験をし、最後は『をん(恩)』で終わる」など、日本語や漢字の持つ意味をゴルゴさん独自の解釈でひも解き、人が生きる意味や自身が生きていく上で大切だと感じていることなどユーモアを交えて講演しました。

また、終盤では「言霊という言葉があるように、昔の人は言葉にも魂が宿ると考えていた。自分自身で発した言葉が自分自身の人生をつくる。良い言葉を使おう」と言葉の大切さを呼びかけました。生徒や観客にとって、普段何気なく使っている「言葉」について改めて考え、意識するきっかけとなったようでした。



ゴルゴ松本さん

講演中、ステージから降りて生徒や観客とふれ合う場面もあり、会場は終始笑い声に包まれていました。

※写真の転用をたく禁じます。

不法投棄は犯罪です!



5月13日、最上川・須川の河川敷と高速道路の側道で不法投棄された廃棄物の回収作業が行われました。この活動は、環境保全監視員、各地区衛生組合長の協力のもと毎年行っているものですが、今年もタイヤやテレビなど、大量の廃棄物が回収されました。町では、環境保全監視員にパトロールを依頼するなど、日頃から不法投棄防止に努めていますが、不法投棄が後を絶ちません。

廃棄物の処理および清掃に関する法律では、「何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない」とし、

これに違反した者には「5年以下の懲役もしくは1千万円以下の罰金、またはその両方を科す」としています。不法投棄は、単なるモラルに欠ける行為では済まされず、立派な犯罪として扱われるのです。

景観を損ね、環境汚染につながる不法投棄。町民1人ひとりが「不法投棄は許さない」という気持ちで監視の目を光らせ、不法投棄をなくしましょう。



『広報なかやま縮刷版』販売中

歴代の広報紙を集約した『広報なかやま縮刷版』の第1巻～第4巻を販売しています。

中山町が誕生した昭和29年当時の広報紙から掲載しており、中山町の沿革や当時の思い出を振り返ることができます。冊数に限りがありますので、お早めにお買い求めください。

※お問い合わせ先

政策推進課地域情報G ☎662-2223



	掲 載 号	価 格
第 1 巻 (残りわずか)	昭和29年10月号～昭和59年10月号	4,320円(税込)
第 2 巻	昭和59年11月号～平成6年10月号	4,320円(税込)
第 3 巻	平成6年11月号～平成16年10月号	5,400円(税込)
第 4 巻	平成16年11月号～平成26年10月号	5,400円(税込)